

羅臼町議会だより

しれとこ



出船入船・刺し網漁船とウニ舟（知円別港）

平成21年

第121号

2月10日

第4回定例議会	2
第1回臨時議会	3
決算認定	4～5
一般質問	6～9
児童の議会見学	10

平成二十年 第四回 定例議会

去る十二月十八日、平成二十年第四回定例議会が行われた。議案七件が提出され、すべて可決した。

補正予算

一般会計

総額 三九億七、六二〇万円
七四二万円増

歳入

- 衛生使用料 二六万円
- 国民年金費事務委託金 六万円
- 社会福祉費補助金 三九万円
- 教育総務費委託金 六八万円
- 総務費寄付金 九〇万円
- 前年度繰越金 五一三万円
- 歳出
- 総務費 一〇万円
- 報償費 一〇万円
- まちづくり基金積立金



- 総合行政ネットワークシステムに要する経費 七〇万円
- 一五七万円

- 賦課徴収事務に要する経費 三三九万円
- 国民年金事務に要する経費 六万円
- 福祉灯油購入費扶助 九五万円
- 葬祭場・霊園管理運営に要する経費 二六万円
- 各種福祉館管理に要する経費 二四万円
- 鳥獣保護管理に要する経費 一五万円

国民健康保険会計

総額 一一億九、一八〇万円
六六万円増

歳入

- 医療給付費分滞納繰越分 二六万円
- 療養給付費交付金 四〇万円

歳出

- 北海道自治体情報システム協議会負担金 一万円
- 診療報酬保険者負担金 四〇万円
- 保険税還付金 二五万円

条例改正等

- 町税条例の一部を改正する条例の一部改正
- 寄付金控除対象の追加
- 国民健康保険条例の一部改正
- 出産一時金の増額
- 安全で住みよいまちづくり条例の一部改正
- 国民年金事務に要する経費
- 葬祭場・霊園管理運営に要する経費
- 鳥獣保護管理に要する経費
- 犯罪及び事故等の被害者支援の実施等を追加
- 証明手数料徴収条例の一部改正
- 優良住宅・宅地認定手数料の追加
- 釧路・根室広域地方税滞納整理機構規約の一部変更協議
- 別海・標津町加入に伴う変更等

行政報告

- 町長
 - 秋の叙勲受賞について
 - 高規格救急車の受納について
 - 漁船海難事故について
 - 診療所経営について
 - 漁獲高について
- 教育長
 - 植別小中学校適正配置計画について



平成二十一年(二月二十六日開催)

第一回臨時議会

補正予算

一般会計

総額

一、五九二万円増
三九億九、二一二万円

歳入

- ・負担金 二〇七万円
- ・国庫補助金 一、三六九万円
- ・繰越金 一五万円

歳出

- ・修繕費 三五一万円
- ・建物購入費 八三三万円
- ・漁港管理に要する経費 二〇七万円
- ・地域消費拡大推進事業補助金 二〇〇万円

財産の取得

- (住所) 栄町八番地一
- (名称) 羅臼治山事業監督詰所
- (構造) 木造亜鉛メッキ鋼板葺二階建



(延床面積) 三三七・五六㎡
(取得の目的) 障害者地域生活支援事業活用
(取得価格) 八三三万二、七五〇円
(契約の相手方) 北海道根室支庁長 石井直志

回数制から一問一答方式へ

一般質問が変わりました



十二月開催の第四回定例議会から一般質問の方法が変わりました。

議会運営委員会では、昨年四月から議会改革に取り組み、住民に分かりやすい議会運営を目指し協議をしてきました。従来の一般質問は時間を決めて三回までの回数制で実施していましたが、この方法では質問件数が多い場合には質問趣旨が伝わらなかったり、答弁漏れなどがあったりと傍聴者の方にもわかりづらく、全国的にも回数制から一問一答制に移行している状況を考え、

え、当議会も議員数が十人となった現在、十分な議論をするには一問一答方式が望ましいと考え、当面の間、試行という形で実施することにしました。時間を四十五分間と定め、その時間内でまとめて質問していたものをひとつひとつ質問をいくことで、質問内容が理事者はもちろん、住民のみなさんにも伝わるものと考えています。

また今までは自席から質問をしていましたが、議場に質問席を設けました。

今後も住民に分かりやすく、またスムーズに運営が図られるよう、できることから改革を進めていきたいと考えています。

財政は

平成19年度 決算特別委員会報告

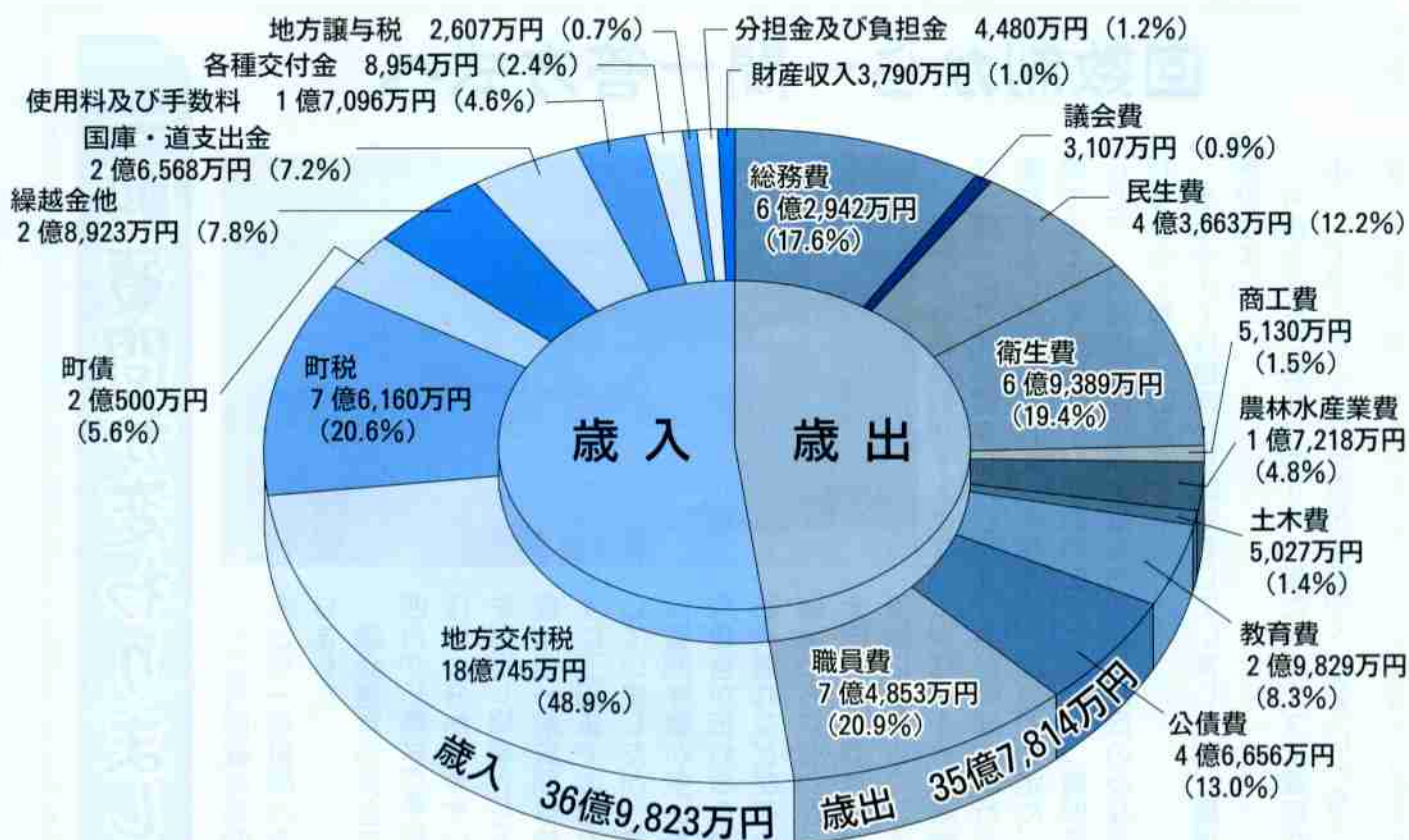
どうなってるの？

議会に報告

平成二十年度決算から地方自治体健全化法の施行により、事業会計及び公営企業会計の全ての会計が連結されることとなりますが、各会計については独立採算制を基本とすることについて、住民に過度の負担とならぬよう慎重に対策すべきと考えます。自治体財政健全化のために、住民負担を増やすことは極力避けるべきと考えます。

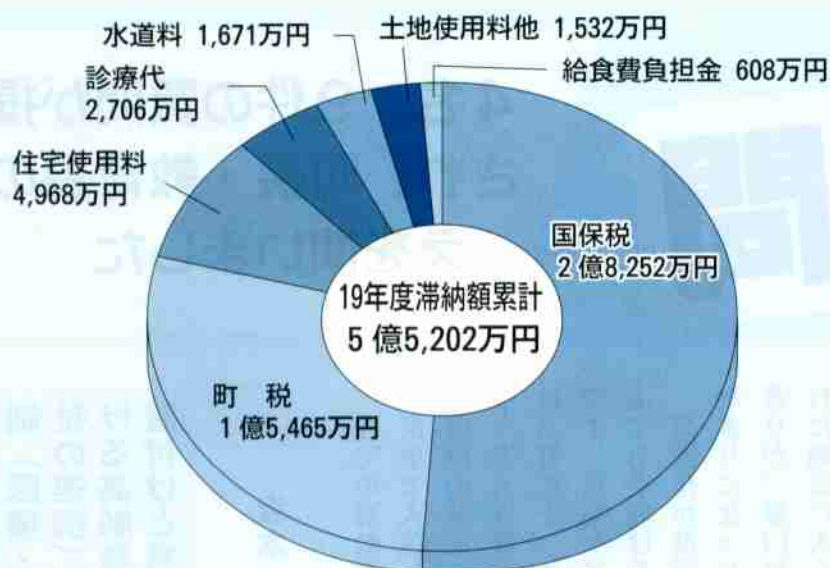
平成十九年度一般財源の確保にむけた様々な対策、産業活性化プロジェクトに見られる新たな自主財源対策、税の滞納対策など当局の努力に敬意を表するものですが、個々の政策、対策をしっかりと総括し、次年度に向けた取組みにつなげていただきたいと考えます。

本委員会は全員一致で認定すべきものと決定しましたので報告いたします。

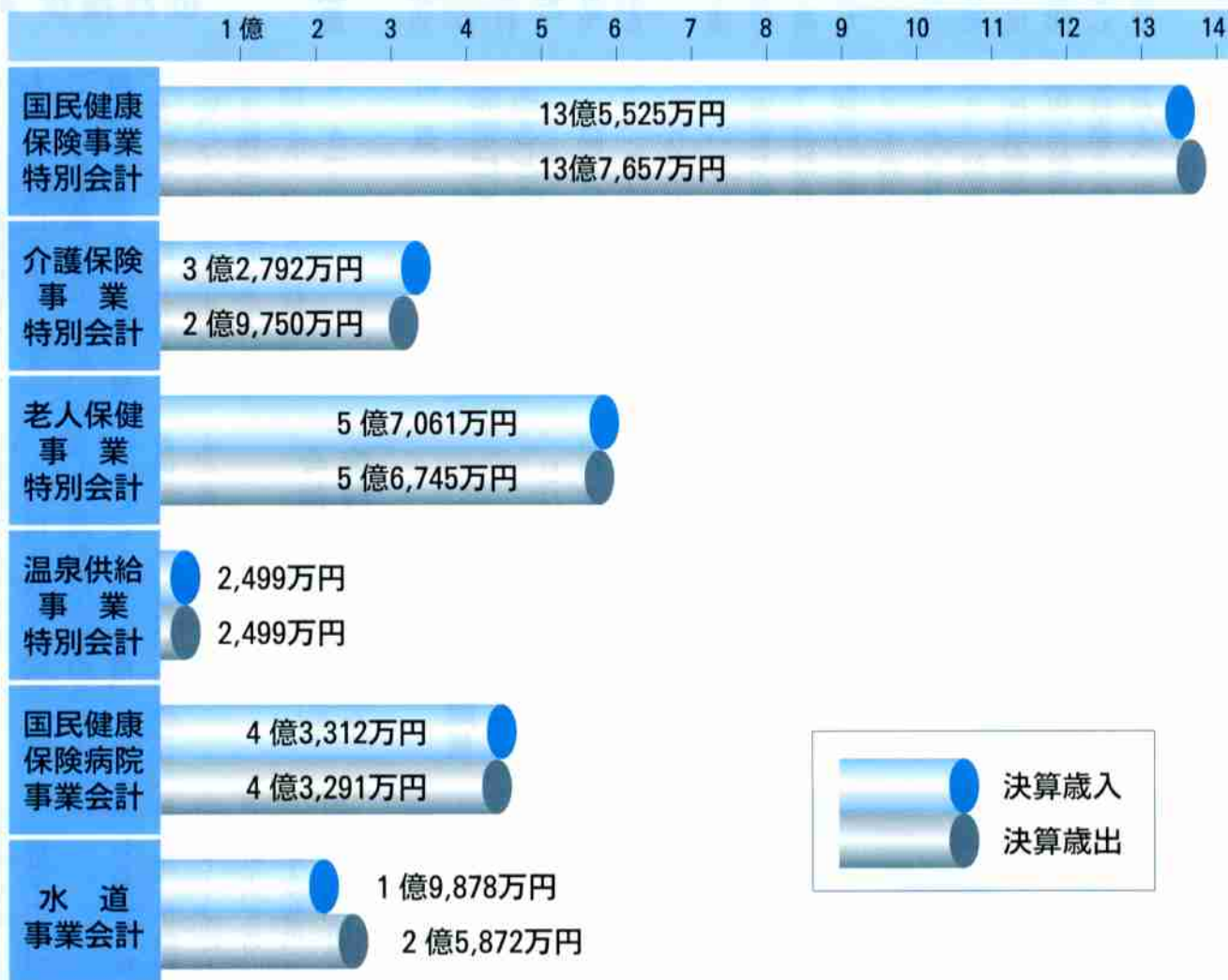


(歳入) 36億9,823万円 - (歳出) 35億7,814万円 = (差引残額) 1億2,009万円

町の



19年度滞納額累計



平成19年度特別会計・企業会計決算

定例議会

質問

4名、9件の質問が提出され、町長・教育長の考えを問いました

羅臼町の医療ビジョン・地域包括ケア体制（医療・保健・福祉の連携）推進における高齢者施設の位置付けと考え方は

坂本 志郎 議員

在宅の高齢要介護者が急性疾患で入院した場合、在宅復帰の前にリハビリを行なう老人保健施設（老健）は当町にとって必要不可欠です。在宅ケアを推進する上でも老健は重要です。

高齢化が進行する中で寝たきりになった私達のお年寄りが、羅臼町から遠く離れた施設に入らざるを得ない事は悲しいことです。

町内に老健施設があればリハビリはもちろん、在宅介護で疲れている家族や昆布漁などの時期に一定期間（ショートステイ）安心して施設に預ける事も可能です。

高齢になっても、独居に

なっても、認知症になっても地域で共に支え合い安心して暮らし続けるために、地域包括ケアは積極的に推進すべきですが、その上で当町にとって必要不可欠だが未整備の機能・老人保健施設をしっかりと位置づけるべきである。

町長

非常に重要な施設であると認識している

退院後にリハビリが必要な方、又は家庭の事情などにより自宅に戻ることが出来ない方にとっては、非常に重要な施設と認識している。高齢者施設については広域的に整備されてきたところであり、昨年度まではまったく施設が無かった町に、初めて民間の力により地域密着型施設として認知症高齢者グループホームが整備されました。しかしながら、包括ケアとしては十分な体制ではなく、現在のところ他町に頼るしか

今年度福祉灯油制度は継続するのか

坂本 志郎 議員

私は九月議会で、福祉灯油制度の継続と対象者を拡大するため、年齢制限を現行の七五才以上から七十才以上に引き下げるよう求めたが、今年度福祉灯油制度実施の有無と実施内容を示せ。

町長

今年度についても実施する

昨年福祉灯油制度は灯油価格の変動に対する緊急的措置として行ったもので後年度以降について制度化

はしないが、今年度については以下の内容で実施する。

※対象要件は昨年通りであるが、年齢制限を七五才から七十才に引き下げ対象者を拡大する。

（今年度該当者は約五十名増の一九〇世帯を予定）

坂本議員による
その他の質問

●羅臼町国保診療所の現況
来年度計画・公設民営の
考え方





平成20年12月18日



遊休施設の有効利用について

湊屋 稔 議員

町長は、過去の議会において遊休施設の有効利用を積極的に図ってまいりまして、おっしゃってまいりましたが、ここでいう有休施設とはどの施設を指すのか。

また休んでいるわけではないけれど、有効に利用されていない幌萌地区の体験実習館や体験農園やオートキャンプ場については今後どのように活性化し、有効

利用していくおつもりでしょうか。幌萌地区は、羅臼町でも数少ない広いエリアであり、運動公園、パークゴルフ場を含めて今一度計画や取り組みが必要と考えますが、町長のお考えをお聞かせ下さい。

町長

地域の活性化に結びつく方策を考えたい

現在の有休施設とは、町民スキー場、旧知円別小学校校舎及び教員住宅、町内福祉館、廃網処理施設があります。

体験実習館やオートキャンプ場は、年々利用者が減少しているのが現状です。

今後町民の方や観光客に利用していただける施設となるよう、産業活性化プロジェクトを中心に関係課による検討を始めており、さらに様々な団体からもご意見ご提言をいただきながら方策を模索してまいります。

救急車の配置について

湊屋 稔 議員

先日、三台目となる高規格救急車が納車されました。現在夜間救急は全て中標津もしくは鉦路へと搬送されている現状があります。

特に搬送時間を要する岬町方面地区には年間を通じて漁船漁業や定置漁業者、そして昆布やウニ漁業者、又多くの観光客がおとずれています。

そこで三台ある救急車の一台を岬町地区に配置できないでしょうか。常駐が無理ならばせめて中標津までの搬送を余儀なくされる夜間だけでも、岬町地区への救急車と救命士の当直などはできないでしょうか。時間がかかる地域のすぐそばに救急車があると安心感は、今とはくらべものにならないと思いますので是非とも検討下さい。

町長

現状では厳しい状況

現在の職員体制では、人員の不足が生じ、消火体制や救助体制の低下を招くことになるため、その都度、岬町配置の救急車を本署に移動させる必要や、非番や公休者からの職員補充が必要となるなど、職員の負担も大きくなります。経費面におきましても職員増員による人件費と宿舎や車庫の建設費を含めると、初年度八千五百万円程度必要となります。

現状では難しい状況であり救急受入れなど、診療所体制を一日でも早く解決できるように努力してまいりますのでご理解お願いいたします。

般

質

問

中標津病院の 紹介状とは

山下 崧議員

町民が安心出来るこの街の方針に異変が起きている。即ち中標津町立病院で治療を受けたいと思っても、羅臼町診療所発行の紹介状が無ければ断られ帰宅している事例があり、命にもかかわる重大問題である。医師も二人体制となり診療体制の創意工夫を出来ないか。

町長

中標津病院より 依頼がある

中標津病院で受診出来る紹介状は、先方より依頼があり、医師を含めたスタッフの不足により、是非協力して欲しいとの事。当町としても住民に心苦しく、しかも申し訳ない事とされている。今は当町が目指している医療の過渡期である事を理解してほしい。

安心して受けられる 医療

山下 崧議員

四月から診療所に移行し念願の医師も二人体制になり町民にとって有難い事である。羅臼町の連結実績赤字比率は危険水域であり経営改善努力が急務である。にもかかわらず毎月赤字が続いているが、何の為の診療所移行だったのか、指針をしっかりと持って町民の生命・安全確保を図ってほしい。

町長

一次医療としての役 目と理解している

経営改善努力はしているが、今は途上にある。数値目標はあるが検討中である。町民の想いは診療所に伝えてあり、一次医療としての役目を理解している。将来的には、公設民営化としての医療でありたい。

診療所の 運営について

高島 讓二議員

病院から診療所に変更となつて八ヶ月が経過した。変更の大きな理由は、財政健全化法の施行により病院会計と一般会計が連結とな

り、病院の赤字額が大きくなり、このままだと夕張のように財政再生団体になる。財政再生団体にならないようにとの町の説明によって町民、議会が病院から診療所の変更をやむなく認めざるを得なかった。

町は本年度予算で一億二千八百万円を診療所に繰入れ赤字にならないためにとの説明だったが、八ヶ月経過した今月の時点で約四千万円赤字になる見込みとなった。

私は、診療所となった時から、収入増と支出削減について、人件費の削減など具体的に提言してきたが町は未だに具体策を講じてはいない。人件費を含め、収支バランスについて、また赤字を解消する方策をお聞きする。

先月、十一月に「羅臼の地域医療を考えるシンポジウム」が開催され、その中で医師がその病院に長く勤められるにはとの医師側の考えが伝えられた。少しでも長く本町で医療を続けて



平成20年12月 定例議会



一般質問と答弁は 要約されています

議会だよりでは、質問、答弁の内容を要約して載せています。

質問、答弁の全文については、詳しくお知りになりたい方は、町役場総務課までお問い合わせ下さい。

欲しいと願うが、町、診療所の事務方はどのように医師とコミュニケーションを図っているか。

町長

赤字については力足 りなく申し訳ない

約五千万円の赤字については医師一人体制が五ヶ月続いたために減収となった。赤字の補てんは、最終的に財政比率を見ながら決断する。人員削減は、十月に事務職を一名減員した。他に光熱水費の見直し等で経費削減に努める。

医師とのコミュニケーションは大変重要なことと考え医療スタッフとの良好な関係づくりについて心がけている。

学校統合について

高島 讓二 議員

四月より知円別小中学校がそれぞれ、羅臼小学校と



羅臼中学校に統合となった。新たな環境でのストレス、学力低下、いじめ等の問題。さらに、通学上の安全性、トラブル等なかったか。

義務教育の精神上、本町の教育姿勢の観点からこの際、来年度の新入生及び海岸町から通う中学生も含め通学費の全額補助をすべきと思うが、お考えをお聞きする。

わが国は、地震が多く、五月に起こった中国大地震

では、学校が倒壊し多くの子供たちが犠牲となった。特に飛仁帯小学校の校舎は古く校舎の耐震性について大変問題がある。平成二十二年に統合するとの事だが、子供達が校舎内で過ごす時間は多く、中国大地震のような地震が起きない保証はない。父兄の理解を求め子供達の安全を最優先に考え一刻も早く耐震基準に合致した安全な羅臼小学校に移ってもらうべきだと考える。

教育長

統合に問題なく、 大変良い評価を いただいている

統合した四月当初は、雰囲気戸惑いがあったようだが、一ヶ月も経たないうちに新しい友達が出来、学校生活にも馴染み勉強や部活動に励んでいる。いじめ問題、ストレス、学力低下も見られないと聞いている。父兄との懇談会もすでに二回開催し、大変よい評価を

頂いている。

通学費の全額補助については、平成十四年十月に「生活バス路線確保及び町有バスの有効利用に関する検討会」の答申を踏まえ、当時の議会でも十分な議論を頂いた。「受益者負担意識の高揚」につながるのと考えから有料化した経緯がある。ただし「学校適正配置計画」に伴い新たに通学費の負担が発生する場合同時に在籍する児童・生徒に限り、卒業するまでの期間、在校生特例として通学費を全額補助する。

校舎の耐震性については耐震診断に一校あたり、三百万円以上必要であり、耐震化工事が必要となると少なくとも数千円から数億円単位の費用が必要となる。町の財政状況を勘案すると早急な対応は困難である。現在進めている学校の適正配置計画を推進する事で解決する課題もあるので統合に理解を得る努力をして参りたい。

議会の動き

12月

- 1日 北方領土返還要求行進（東京都） 議長
- 4日 高規格救急車受納式 議長
- 5日 衛生・消防・廃棄物処理一部事務組合議会（中標津町）
- 8日 議会運営委員会
- 10日 経済文教常任委員会
- 11日 総務民生常任委員会
- 15日 議会運営委員会
産業活性化プロジェクト中間報告
- 18日 第4回定例議会

2009年

1月

- 4日 消防出初式
- 7日 議会だより編集委員会
成人式
羅臼救難所出初式・総会 議長
- 16日 議会だより編集委員会
- 22日 議会運営委員会
経済文教常任委員会
総務民生常任委員会
- 23日 中司道議新年交礼会（中標津町） 議長
- 26日 第1回臨時議会
議会だより編集委員会
町長・議会議長と商工会正副会長が新年を迎え語り合う会（中標津町） 議長
- 29日 行政懇談会 正・副議長
- 30日 議会だより編集委員会
建設業協会新年交礼会 議長

2月

- 7日 北方領土の日根室管内住民大会（根室市）

羅小児童が議場視察

12月4日、羅小5年生（12名）が野外授業で議会をおとずれ議場を視察しました。

議場で議会の役割などの説明を受けたあと、議長席からの眺めや、いすの座り心地などを確かめていました。



編集を
終えて



平成二十一年がスタートして早くも一ヶ月以上がたちました

今回は町の財政についてお知らせしておりますが、ご覧の通り厳しい状況です。

私達も議会改革などさまざまな取り組みをしながら町民の皆さんにわかりやすい議会を目指し努力してまいります。

寒い日が続いておりますが、風邪などひかないようお過ごし下さい。

（湊屋）

議会を傍聴に
来ませんか？

十二月定例議会より一問一答式になるなど、よりわかりやすくなりました。多くの皆さんの傍聴をお待ちしております。